

# 事業実施報告

開催日	令和7年5月22日（木）～23日（金）		
事業名	全国高校生体験活動顕彰制度「地域探究プログラム」 オリエンテーション合宿		
開催場所	国立岩手山青少年交流の家	参加人数	24名
参加学校名等	岩手県立平舘高等学校2年生		
関係機関名	岩手県教育委員会（後援・講師） 岩手県立大学まちづくりサークル「えんぶらり。」 岩手県立図書館（展示）		

## 状況報告 （事業の内容・事業の成果と課題について記載）

### 【事業の内容】

昨年度末に掲載された平舘高校の探究活動についての新聞記事をきっかけに、平舘高校の探究活動を担当していた地域コーディネーターと連絡を取り、連携を打診した。その後、平舘高校に事業の説明に伺い、当プログラムに関心をもっていただき、オリエンテーション合宿のカリキュラムを1年生と2年生とそれぞれが実施することになった。

今回の2学年の探究のテーマは、「八幡平の観光大使になろうプロジェクト」である。1年時から実地調査等を繰り返し行っており、内容ごとにグループを編成して合宿に参加した。合宿では、地域探究プログラムの探究のプロセス「課題の設定」、「情報の収集」、「整理・分析」、「まとめ・表現」の過程を経由できるようにカリキュラムを構成し、多方面の講師を選定した。

### 【成果】

アンケートでは、96.3%の生徒が事業に対して肯定的な回答を示した。満足できなかった生徒は、事業全体に対するものではなく、個々の取り組みが満足できるものではなかったとのことだったので、今後発問の仕方に工夫が必要である。

充実した講師陣による講義を提供できたことで、生徒の学習意欲を高めることに寄与できた。

岩手県生涯学習振興協会事務局長の佐々木勉氏とフリーアナウンサーの村井由紀子氏は、生徒とたちの学習に寄り添い、見守り、必要に応じてアドバイスをくださった。また、岩手県立大学まちづくりサークル「えんぶらり。」との交流会は大変好評で、高校生からは「的確なアドバイスをもらえた」との感想が多かった。高校生と年齢に近い大学生からの助言は、生徒たちにとって心に響き受け入れやすいものだった様子で、アンケート結果をみても有効であることが分かった。

地域コーディネーターのワークシートやフリーアナウンサーの「伝わる！プレゼンテーション」の講義を経て、最終日にはそれぞれ工夫を凝らしたプレゼンテーションとなっており、合宿の成果が見られた。

最終発表の講評には、岩手県教育委員会の主任指導主事の千葉智恵氏が来所し、高校生の探究に期待することをお話いただいた。さらに、生徒の発表に対し示唆に富んだ話や意欲付けをしていただいた。

### 【課題】

#### ●タイトな日程調整

4月に合宿が決まり、5月の実施まで限られた時間の中で、講師の選定やカリキュラムの時間配分はとても厳しかった。メイン講師と平舘高校の地域コーディネータと、何度もオンライン会議を実施して当日を迎えたが、情報を関係者全員に周知できなかったことがあった。

#### ●予算の削減

昨年度の地域探究プログラムの予算より10万円減額でさらに、申込学校数が増えたことで、講師謝金や送迎費用、Wifiレンタル代等でのやりくりに苦労した。

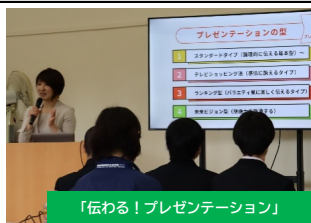
#### ●学校現場とのスケジュール感のズレがあること

学校の総合的な探究の時間は、1年間をかけてテーマを探究していく。地方ステージに向けての活動報告書の提出締切が11月28日で、実践活動をする時間が少ないとの指摘があった。また、オリエンテーション合宿のカリキュラムに発表の時間を盛り込むことや完成されていないものを外部で発表する等、高校側が進めるのに支障があり、難色を示す場面があった。

## 状況写真



「考えるな、動け！限界を突破しろ！」



「伝わる！プレゼンテーション」

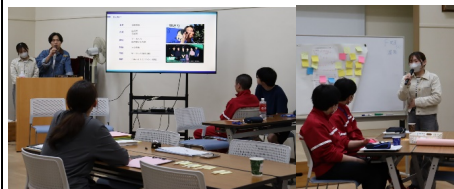


### 外部講師による講義

（生涯学習振興協会事務局長 佐々木勉氏 ・ フリーアナウンサー村井由紀子氏）

### アイスブレイク

（講座担当：テンパークスタッフ）



県立大「えんぶらり。」の発表・交流



発表への助言



講評

### 最終発表・講評

（講評：岩手県教育委員会高校担当他）



集合写真

# 事業実施報告

開催日	令和7年8月26日（火）～27日（水）		
事業名	全国高校生体験活動顕彰制度「地域探究プログラム」 オリエンテーション合宿		
開催場所	国立岩手山青少年交流の家	参加人数	38名
参加学校名等	岩手高校2年生（プログラミングコース）		
関係機関名	岩手県教育委員会（後援・講師） 盛岡市動物公園 岩手県立大学まちづくりサークル「えんぶらり。」 岩手県立図書館（展示）		

## 状況報告 (事業の内容・事業の成果と課題について記載)

### 【事業の内容】

今年度も岩手高校プログラミングコース独自の宿泊行事「アイデアソン」の中で、オリエンテーション合宿のカリキュラムを実施した。今回の学校設定テーマは、岩手高校理科教員の提供による「生物多様性と人的被害」である。昨今、熊の出没による人的被害、イノシシによる大規模な農作物の被害などが岩手県のニュースを賑わせていたので適時性を活かせるとともに、様々な企業や行政との連携についても考察でき、さらに生徒自身が自分の問題として捉えられるような工夫が求められる。そこで、テーマへの理解を深めるプログラムと講師の選定を提案し、サポートを行った結果、プログラム満足度では100%の生徒が肯定的な回答を示した。事業全体に関する満足度は88.6%であった。その後、8グループすべてが探究活動の成果をまとめることができ、地方ステージに向けて報告書作りに前向きに取り組むことができた。

### 【成果】

#### ○充実したプログラムを提供できたこと

生徒たちがテーマと向き合い、解決に向けてアイデアを出すには、様々な意見を出し合うことが一番だと考え、テンパークスタッフで「プレスストーリーミング」、「why why法」、「KJ法」の技法を提供した。ワークショップ形式で具体的に取り組むことで、生徒たちは体感できた様子だった。体験後にはホワイトボード一面にイメージマップを作成しているグループが多く、テーマを自分事として捉え、意欲的に取り組む姿がみられた。感想には「極端な意見にならないように他の視点から物事を考えるなど、この事業を受ける前より探究は深まった。」との記述があり、生徒の学習意欲を高めることに寄与できたと思う。

#### ○生徒の実践活動につながるサポートができたこと

岩手県立大学まちづくりサークル「えんぶらり。」との交流場面を今年度も入れたことで、高校生からは「発表を誰を対象にどのようにするのかということを教えてもらったことが大きかった」などの感想があった。高校生と年齢が近い「ナナメの存在」である大学生からのアドバイスに加え、今回、探究学習を担当している岩手県教育委員会の主任指導主事の抱石鉄也氏や盛岡市動物公園の森敦子氏が最終発表の助言者として参加した。それぞれの立場から実践の重要性を助言していただいたこともあり、生徒たちは、合宿を通じて出会った盛岡市動物公園と「手を組んで活動できるチャンスをいただいたので、活かそうと思う」等、実践を意識した提案が多く見られた。

11月には岩手県立図書館のユースコーナーに1か月間の展示の許諾をいただき、合宿の成果物を広く発信する機会を提供することができた。パネルをご覧になった方から実践活動につながるアイデアをいただく予定である。

### 【課題】

#### ●研修環境の一層の充実

昨年度研修室で活用したスポットクーラーが、あまり効果がなかったため、エアコンが唯一設置されている研修室で全ての活動を実施した。研修環境が大幅に改善され、引率者からも好評であったが、中間発表や最終発表で、声が反響し隣のグループの説明と音が重なり聞きにくいとの意見があった。広い研修室にも空調機器の設置が強く望まれる。

#### ●生徒の実践活動を後押しするためのサポート

岩手高校プログラミングコースのカリキュラムや取組そのものが秀逸であり、どのように学校の取組を効果的にサポートしていくかが今後も課題である。今回、合宿での多様な人々との関わりがその後の実践活動につながったことを踏まえ、大学生団体等の活動事例、当施設の出前講座（ブース出展）等を紹介することで、生徒の実践活動をさらに後押しすることができると考える。適宜、情報提供等を行っていきたい。

## 状況写真



テーマの発表



情報収集



グループで発想を広げる(イメージマップ)  
(講座担当:テンパークスタッフ・藤井所長)



理科教員によるテーマの提示



県立大「えんぶらり。」の発表・交流



発表



講評



ポスターセッション・講評

講評:藤井所長、抱石鉄也氏(教育委員会)森敦子氏(盛岡市動物公園)



記念撮影



# 事業実施報告

開催日	令和7年9月16日（火）～18日（木）		
事業名	全国高校生体験活動顕彰制度「地域探究プログラム」 オリエンテーション合宿		
開催場所	国立岩手山青少年交流の家	参加人数	18名
参加学校名等	岩手県立平舘高校1年生		
関係機関名	岩手県教育委員会（後援） 八幡平市社会福祉協議会 岩手県障がい者スポーツ協会 工房寿限無 滝沢里山研究会 岩手県立大学まちづくりサークル「えんぶらり。」 田楽茶屋 岩手県立図書館（展示）		

## 状況報告 (事業の内容・事業の成果と課題について記載)

### 【事業の内容】

今年度から、新たに平舘高校のサポートを行うことになった。年度初めの話し合いで、今年度は、活動報告書は作成せず顕彰制度にはエントリーはしないこと、岩手山青少年交流の家では、数多くの直接体験をしたいという学校の希望を受けて、オリエンテーション合宿の内容を企画し提案をした。

1年生の学校設定テーマは、「八幡平満喫プラン～私たちの街を世界へ～」である。地域コーディネーターが、地域の観光資源の見学や担当者からの講話を学校の授業で企画していたので、合宿では、八幡平市の産物を使った工芸体験や食文化を学ぶ調理体験を計画した。さらに、当施設の「キャップハンディ体験」を活用し、八幡平観光時に福祉の視点を意識できるように、大更駅周辺での車いす体験と白杖体験も取り入れた。このように直接体験することで、生徒自身が自分の問題として捉えられるような工夫をした。

テーマへの理解を深めるプログラムと講師の選定を提案し、サポートを行った結果、事業全体に関する満足度では100%の生徒が肯定的な回答を示した。

### 【成果】

#### ○充実したプログラムを提供できたこと

事業実施にあたり、地域コーディネーターの鈴木絵美氏、講師の佐々木勉氏とオンライン会議の実施や、藤井所長とのレクを繰り返し行い2泊3日を生徒自身に気づきを生み出すような充実したプログラムに構成することができた。

1日目のキャップハンディ体験は現地のフィールドで行った。当施設の既存の活動プログラムを大更コミュニティセンターで行い、さらに駅や病院、ホテルを白杖や車いすでグループごとに周回した。当事者の講師や障がい者スポーツ協会の講師の助言も示唆に富み、事後のワークシートを主体的に書き込む姿が見られ、学習を深めることができた。

2日目は、滝沢里山研究会の近藤修三氏を講師に郷土食にスポットをあてて、大豆の活用を学び豆腐田楽を作ったり、ひつまや朴葉団子、雑穀飯や大根飯にも挑戦した。会場の南部曲り家で八幡平の気候や歴史に思いを馳せながら、体験する楽しさを満喫した。午後は、日本で唯一のあけびつるを使った表札作りを行った。夢中になって取り組むことの楽しさに気づきがあった様子で、旅行者のニーズに合わせて提案していく様子が伺われた。その後、ブランドストーリーの大平恭子氏より食の価値づけの話があり、県北地方の素朴な料理がまさにヴィーガン食だった話や、宗教上の理由で食べられない素材がある話など、様々な気づきを与えてくださった。夜の振り返りでは、岩手県立大学の「えんぶらり。」の福田氏のアドバイスもあり、今までないような活発な意見交換が見られた。どの講師もすぐに答えを出さずに寄り添う姿勢からのアドバイスのため、生徒たちは終始意欲的であった。

最終日は、コーディネーター自作のワークシートを活用し、模造紙にポンチ絵風にまとめた。佐々木勉氏のアドバイスを受け、遊びの要素を取り込んだ提案に会場はいい雰囲気での発表となった。最後に3名の講師より講評をいただき、生徒たちは学びがあった様子であった。アンケートをみても、テーマを自分事として捉え、意欲的に取り組む姿がみられた。

岩手県立大学まちづくりサークル「えんぶらり。」との交流場面を取り入れたことで、高校生からは「自分では気が付かないことを教えてもらったので、次は内容や発表の仕方を工夫したい」との感想があった。高校生と年齢が近い「ナナメの存在」である大学生からのアドバイスに加え、今回、探究学習を担当している地域コーディネーター鈴木絵美氏と岩手県生涯学習振興協会の佐々木勉氏から、活用しやすいワークシート、ポンチ絵などの教材の工夫も効果的であった。

### 【課題】

#### ●予算削減

昨年度と比較して大幅な予算削減のため、参加生徒の送迎にバスやタクシーを使用することが出来なかった。2泊3日の実施のため、食費等の経費もかかり、生徒の集金額を増やすことに対し学校側から懸念を示され、活動経費の徴収に制限があり予算設定に苦労した。

#### ●生徒の実践活動を後押しするためのサポート

平舘高校の探究の時間の取り組みそのものが秀逸であり、合宿以後も積極的に地域での実践活動が組まれていた。当施設の学校のサポートとしては、合宿での多様な人々との関わりをその後の実践活動につなげていくことを踏まえ、大学生団体等の活動事例、繋がった講師からの情報発信、県立図書館でのパネル展の企画等で、生徒の実践活動をさらに後押しすることができると考える。適宜、情報提供等を行っていききたい。

## 状況写真

